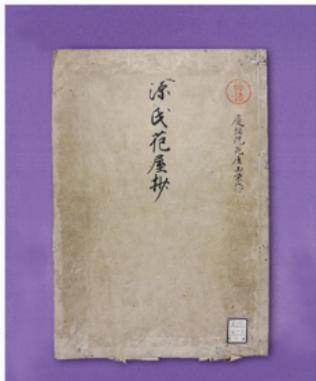


『花屋抄』 4冊



『花屋抄』は、蓬左文庫本・ノートルダム清心女子大学本の奥書より文禄3年（1595）7月、花屋玉栄著と知られる。花屋玉栄は近衛植家女であり、『源氏物語』関連の書物である『玉栄集』の著者としても知られており、中世末から近世初頭の『源氏物語』研究を語る上で欠かせない女性である。

ノートルダム清心女子大学附属図書館黒川文庫蔵『花屋抄』（整理番号 E17。以下ノートルダム清心女子大学本と略称）は、28.1 × 横 19.4cm。袋綴、楮紙。全4冊。題簽なく、外題は中央に直書で「源氏花屋抄」。第1冊のみ、表紙右肩「物語」の朱陽丸印の

下に「慶福院花屋玉栄作」とある。生成りの雷文禪地に菊花文様の空押紙表紙。

遊紙なし。墨付丁数は、第1冊・68丁、第2冊・67丁、第3冊・58丁、第4冊・45丁。一面行数10行。1行字数19字前後。全冊一筆。各冊一丁表右上に「藤波家蔵書」、その隣に「ノートルダム清心女子大学図書之印」、「藤波家蔵書」の下に順に「黒川真前蔵書」「黒川真頼蔵書」「黒川真頼」「黒川真道蔵書」、後表紙見返しに「ノートルダム清心女子大学図書之印」の朱陽印。第四冊のみ、右下「黒川真道蔵書」の左に「黒川真前蔵書」が押される。

蓬左文庫本とノートルダム清心女子大学本のみ、自跋の最後に玉栄の署名および年記を有しており、これが元来の形であったと考えられる。本文的には蓬左文庫本が善本と考えられるが、蓬左文庫本は、現状においては巻をまたがる複数の錯簡を有する。署名・年記を有し、現状で錯簡を有せず、脱落も他本に比して少ないノートルダム清心女子大学本は、現状での最善本とも言うことができよう。

なお、特筆すべき特徴として、女性による女性のための注釈書であると、自跋において高らかに宣言することが挙げられる。この時期の記録類に見られる、女性の『源氏物語』享受の隆盛に、花屋玉栄が一役買っていたことも考えられよう。

（文部省日本語日本文学 准教授 新美哲彦）